

● 学会発表の内容

体外受精実施者へのインフォームドコンセント用資料作成 ～AMHによって成功率（出生率）はどのくらい変わるのか？～

医療法人社団 徐クリニックARTセンター
清須知栄子 伊藤真理 峰千尋 中塚愛 徐東舜

■【目的】

体外受精を実施する際に、インフォームドコンセントの資料として体外受精成績（出生率）を患者に伝える必要がある。そこで体外受精成績の説明資料として、当院でのAMH別での採卵回数ごとの出生率を調べ、その累積出生率のグラフを作成したので報告する。

■【対象】

2010～2013年の体外受精初回実施者775症例のうち、タイミング及びAIHにて出生した20症例を除いた755症例のうち、AMH値を測定した678症例を対象とし、測定値別に4群に分類した。分布は、AMH測定値（ng/mL）が0.5未満：102症例（15.0%）、0.5～1.0未満：102症例（15.0%）、1.0～3.0未満：265症例（39.1%）、3.0以上：209症例（30.9%）であった。

■【方法】

対象の採卵で得られた移植胚全てを用いて出生の有無を調べ、その採卵ごとの出生率及び累積出生率について採卵4回目までを各AMH別に調べ検討した。また、ドロップアウト（治療中断）した症例を全て出生に至らなかったとみなした非楽観的予測、ドロップアウトした症例がその回数ごとの出生率と同程度で出生に至ったとみなした楽観的予測の2つを比較検討した。

■【結果】

累積出生率の楽観的及び非楽観的予測の1回目は0.5未満：4.9 vs 4.9%、0.5～1.0未満：21.6 vs 21.6%、1.0～3.0未満：42.6 vs 42.6%、3.0以上：58.4 vs 58.4%。2回目は0.5未満：15.4 vs 14.7%、0.5～1.0未満：34.6 vs 33.3%、1.0～3.0未満：55.6 vs 53.6%、3.0以上：75.6 vs 72.2%。3回目は0.5未満：19.0 vs 17.6%、0.5～1.0未満：43.9 vs 41.2%、1.0～3.0未満：64.2 vs 60.0%、3.0以上：79.8 vs 75.6%。4回目は0.5未満：20.1 vs 18.6%、0.5～1.0未満：46.0 vs 43.1%、1.0～3.0未満：68.0 vs 63.0%、3.0以上：82.4 vs 77.5%となり、AMH値が高くなるとともに出生率に著明な上昇がみられた。

■【結語】

AMH値が高くなるにつれ、出生率が上昇することを患者に理解してもらい適切な資料と考える